

## 弥生美術館

「大正の夢 秘密の銘仙ものがたり」展 好評開催中  
11月4日(土)にはギャラリートークを予定

連日、多くの「着物女子」で  
にぎわっています。

私ども弥生美術館では9月30日(土)から  
12月24日(日)まで「大正の夢 秘密の銘  
仙ものがたり」展を開催しております。本展は  
2022年に新宿伊勢丹、新見美術館(岡山県  
新見市)で開催した展覧会の巡回展です  
が、今回は東京での再開催ということで、銘仙



トルソーに着せたコーディネートも多数

点数58枚、トルソーコーディネート17点と、大幅に増やしました。スタートして約1か月になりますが、ありがたいことに連日多くの方に入館いただき、入館者数は4000名を超えました(9月26日現在)。秋も深まってきたこともあり、着物でご来場になる方も多くなっています。

「戦前の豊かさを味わえる展覧会。女学生のその先の  
若い職業婦人の姿が浮き彫りに」

私どもは開催に先立ち、9月29日に一部のマスコミ関係者、インフルエンサー向けに内覧会を開催いたしました。着物好きで知られる女優の吉田羊さん、藤田朋子さん、漫画家の安野モヨコさんなどもご来館され、SNSで発信いただきました。また、ご鑑賞いただいた作家山内マリコさんはご自身が出演する文化放送の番組「おいでよ！クリエイティ部」で本展の紹介をしてくださいました。

内容を抜粋すると、「山内マリコ的推しポイント!『女学生が職業婦人になる』。銘仙は女学生のものというイメージが強かったんですけど、昭和初期になると、結婚するだけではなく、職業婦人になった女の子もいて、若い職業婦人のための銘仙もつくられるようになったんです。そのときにどんなものを着るかという、ちょっと落ち着いたもの、かっこいいもの……。この展覧会で、女学生にその先があったんだ、ということが示されていて、それが感動ポイントでした。海外のトレンドも取り入

れていることがわかり、戦前の豊かさを味わえる展覧会でした」

女学生のものでしょうかがちな銘仙ですが、若い職業婦人のための銘仙はデパートと産地と、前衛芸術家のコラボ企画として打ち出されました。最先端の女性たちをモガと呼びましたが、モガは洋服ばかりではなく、着物も着ています。大胆な幾何学柄はそんな女性たちのためにつくられたもののようなのです。

## 関東が生んだ戦前の大ヒット商品「銘仙」 ギャラリートークでその魅力をより楽しむ

10月21日(土)に開催した本展企画・着物スタイリング担当の大野らふ氏(Ponia-pon店主)のギャラリートークには多くのお客様が詰めかけ、当日の入場者は338名となりました。11月4日(土)には本展の企画と、ほとんどの銘仙を出品いただいた銘仙コレクター・銘仙研究家の桐生正子氏のギャラリートークを予定しています。

。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。

### ◆ 桐生正子氏 ギャラリートーク

日時 11月4日(土)14時～14時40分

桐生氏は栃木県那須塩原市在住の銘仙研究家。京都での大学生時代に銘仙に出会い、それ以来、銘仙蒐集と研究を続けています。桐生さんには八王子、秩父、伊勢崎、足利、桐生など産地それぞれの特徴をはじめ、どんな思いで銘仙を集めてきたのか？ 銘仙の魅力などもお話していただきます。



桐生正子氏  
大学卒業後、栃木県内のテレビ局に勤務。家業、育児の傍ら、銘仙蒐集と研究の日々

。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。:+\* ° ° ° \*+:。

本展は12月24日まで開催する展覧会で、11月15日(水)から一部展示替えも行います。私たち弥生美術館が自信をもって作りあげた展覧会です。機会がございましたら、本展のご紹介、取材お申込み等よろしくお願いたします。

取材のお申し込みは弥生美術館 中川、内田まで

〒113-0032 文京区弥生 2-4-3

TEL : 03-3812-0012 FAX : 03-3812-0699 e-mail : yayoi-m@muse.ocn.ne.jp



◆展示室内の様子



◆SNSでも話題

SNSでの反響も大きく、銘仙を着た写真を「#銘仙でお出かけ」のタグを付けて投稿いただき、館内に掲示する連動企画も盛り上がりを見せています。



◆展覧秋コラボメニュー

美術館併設の「カフェ港や」では、展覧会限定メニュー「ごまあんしるこ 銘仙」(800円)をご提供中。こちらもお好評いただいております。